

メンテナンスをお受けいただいている患者様へ

現在大変な状況が続いておりますが、患者様の皆様がお元気でいらっしゃるかと存じます。

今回はメンテナンスにこのような状況下お越しいただけない患者様にコロナウィルスに抵抗するための口腔内のホームケアについてご紹介しておきます。以下は現在鶴見大学歯学部教授であり、国立予防衛生研究所および国立感染症研究所で口腔科学部部長を歴任された花田信弘先生のお話から引用しています。花田先生は、同窓でありわたしの大学時代の恩師の一人です。以下引用します。

新型コロナウイルスの実効再生産数（感染者1人が次に何人に感染させるかを示しており1以下だと感染は拡大しない）を低下させるために飛沫感染の原因である唾液腺に由来する唾液のウィルスを殺菌力のある洗口剤で常に失活させることが大切です。もちろんこれは予防にも有効です。（ドラッグストアで購入できるリステリンはインフルエンザウィルスに有効であり、コロナウィルスにも有効であるといわれています。アルコール入りがおススメです。）現在受容体の **ACE2** は唾液腺だけでなく口腔粘膜と舌にもありますので舌磨きでウィルスにより死滅した細胞と生きたウィルスを除去することも大切です。また、歯周病菌などグラム陰性菌のエンドトキシン（**LPS**）による新型コロナウイルス感染者のサイトカインストームを防止するためにこれまで以上に歯磨きとフロッシングを推奨し、歯肉炎のない状態を維持することが大切です。ウィルス性肺炎に続発する細菌性肺炎を防止するために、歯周病が進行されている場合、治療は必須です。コロナウィルスとプラークに含まれる歯周病菌（誤嚥性肺炎の原因菌）による肺へのダブルアタックが肺炎を重篤化させる原因になります。

ということです。ですのでこれまでと同等か、それ以上に口腔ケアをしっかりしていただき、コロナウィルスの感染予防をしてください。そして万一感染されても重篤化しないよう、ご準備ください。

また日本歯科医師会よりも、会長より以下のコメントが寄せられています。

不規則な食生活を避け、口の中を清潔にして細菌の数を減らすことが、誤嚥性肺炎や ウイルス性疾患の予防につながります。毎食後の歯磨きをはじめお口の健康を保ちましょう。

歯科医師、スタッフにとって感染リスクが高いとされる歯科医療現場ですが、これまで歯科治療を通じて患者さんの感染の報告はありません。更に感染予防策を徹底し、国民の皆様の健康を守るために取り組んでいきます。

私どもも、万全の感染予防対策のもと、日々診療を続けております。何かございましたらお電話でご相談いただければと思います。一日も早いコロナウィルス感染拡大の収束をスタッフ一同願っております。

令和2年5月7日
医療法人社団 洛歯会
理事長 中田光太郎